

完了後の評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	平成 28 年度～令和 2 年度（5 年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（いぶりとうぶ） 胆振東部森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 胆振東部森林管理署
完了後経過年数	4 年	管理主体	胆振東部森林管理署
事業の概要・目的	本事業は、北海道の南西部に位置する 1 市 2 町に所在する約 6 万 3 千 ha の国有林野を対象としている。 本計画区には北西に^{たるまえ}樽前山やオロフレ山、北東には^{ゆうぼり}夕張山地が連なり、中央部には^{ゆうふつ}勇払平野が広がっている。特に北側に位置する樽前山は、噴火にともなう火山災害の危険性が高く、一帯の森林整備は極めて重要である。南側は長く海岸線が太平洋に面しており、スケトウダラ刺網、サケ定置網、ホッキ貝漁業などの地域の水産業が盛んである。内陸に位置する国有林の総面積の約 92% が水源^{かん}涵養を主な目的とした保安林に指定されており、地域産業である農業や漁業の振興に資する観点から地域の資源保全に重要な役割を果たしている。 また、この地域は古くからアイヌの人々が多く暮らしており、貴重なアイヌ文化の振興に取り組んでいる。国有林においても、アイヌ文化に不可欠な林産物の供給に地域と一体となり取り組むために、^{しらおい}白老町と共用林野契約を締結するなど、文化的な機能にも着目する必要がある。 本計画区は、優れた自然景観を有することから、^{しこつとうや}支笏洞爺国立公園が風景林に指定されており、自然環境の維持が図られている。ポロト湖周辺は豊かな森林に覆われ、エゾシカ、キタキツネのほかエゾモモンガ、エゾリス等の野生動物やアカゲラ、オオルリ等約 80 種の野鳥が生息しており、ミズバショウやザゼンソウ等の湿性植物も見られることから、自然休養林に指定されているほか、近年の気候変動にともなう水土砂災害の軽減防止効果も期待されている。 森林の現況は、トドマツ（57%）を主な樹種とした人工林面積が約 2 万 2 千 ha、天然林面積が約 3 万 7 千 ha であり、森林蓄積は全道平均 147 m³/ha に対して 122 m³/ha となっている。 人工林の齢級構成は、約 70% が 7～12 齢級で、その中でも主伐期とされる 10 齢級以上の割合は約 73% を占めるなど森林資源の本格的な利用期を迎えており、針広混交林や複層林へ計画的に誘導し木材を安定的に供給するほか、間伐の適切な実施や主伐後の確実な更新を図る等、森林整備の必要性は一層増している。 このため、本事業は、森林の有する公益的機能の持続的な発揮を通じて地域の期待に応えるとともに、国産材の安定供給体制の構築や生物多様性の保全等の促		

	進及び地球温暖化防止にも貢献するため、森林整備を積極的に推進するとともに森林整備の効率的な実施に必要な路網整備を実施したものである。 ・ 主な事業内容 森林整備 更新面積 101 ha
--	--

	ているが、60 歳以上の割合は全体の 30%を超え、林業に従事する後継者の確保が課題となっており、作業の機械化による安全性や労働条件の向上が若年層の就業定着に大きく影響している。 また、北海道内では、木質バイオマスの需要拡大や道産建材の利用拡大の取組が展開されている中、国有林においても、森林・林業・木材産業の発展や振興に寄与するため、自然条件や作業システム等に応じた路網整備を推進することが重要である。また、本計画区は樽前山の山麓周辺に位置し、都市近郊林であることから水源の涵養、国土の保全といった森林の多面的機能が発揮されるよう、森林整備を進めることが求められている。
⑥ 今後の課題等	森林資源の適正な管理・循環利用を図りながら森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画に基づき着実に森林整備、路網整備を実施する必要がある。 事業の実施に当たっては、今後の施業を想定した効果的な路網配置に加え、コンテナ苗の活用、伐採と造林の一貫作業及び下刈りの機械化により、森林整備の省力化及び低コスト化に資する取組を推進することが課題となる。 また、森林による二酸化炭素の吸収に対する期待に応え、また、北海道産材の需要に応じた木材の安定供給体制を構築するなど、北海道の林業・木材産業及び地域振興に貢献する取組が求められる。 なお、これらの取組は、関連する地域の自治体や林業事業体と現地検討会等を通じて技術の共有を図り、普及に向けて連携することが重要である。 地元の意見： （北海道） 森林整備事業及び路網整備事業の実施により、森林の有する多面的機能の維持増進が図られたと認識している。 今後とも道や関係市町村等と情報の共有を図りながら、森林整備を推進していただきたい。 （苫小牧市） 国有林は苫小牧市の水源地の上流部にあり、台風による風倒被害地の復旧をはじめとした森林の整備・保全が実施されたことは、水源涵養機能や土砂流出防止機能など森林がもつ多面的機能の発揮と、良好な森林形成が図られるものと高く評価する。 また、樽前国有林において導流堤が施工されていることは樽前山の次期噴火に備えた防災および減災に寄与しているものと評価する。今後とも国有林の適切な森林整備の推進をお願いしたい。 （白老町） 白老町における国有林の森林は 67%を占め地域における水源林としての役割を担っており、間伐を主体とした森林整備が実施されたことにより、森林の有す

	る多面的機能が発揮される健全な森林の形成がなされたことは評価する。 また近年のアウトドアブームや、令和２年７月にオープンしたウポポイに国内・国外から多くの観光客が訪れていることから、ウポポイ周辺にあるポロト自然休養林を中心とした、森林空間を生かした総合的な森林整備にご協力願いたい。 (むかわ町) 行政面積の約８割を森林面積が占める当町において、国有林の占める割合は高く、この間、国有林において森林整備事業が着実に実施され、本町の森林の持つ多面的機能が発揮されたことは十分に評価できる。また、本町には複数の林業事業体や製材工場等があることから林業・木材産業が基幹産業の一つであり、国有林における森林整備事業の実施により、木材の安定供給及び雇用の維持に寄与されたと評価できる。 山間地域に集落が点在する本町にとって、国有林が持つ水源涵養や土砂流出といった公益的機能の維持増進は非常に重要であり、また本町の林業・木材産業の振興のため今後も引き続き森林環境保全整備事業が実施されることを期待する。
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	本事業の実施により、水源涵養や山地保全等の森林の持つ公益的機能の維持増進が図られており、事業の効果が発揮されていると認められる。
評価結果	・ 必要性： 本事業は、地域の林業や農業及び水産業の振興に資する観点から、水源林や火山地域における防災林としての働きといった森林の有する多面的機能の発揮に重要な役割を果たしている。また、むかわ町及び北海道と地域主体の一体的な森林づくり協定を締結し、所管を超えて流域が一体となった森林整備、森林資源の循環利用など及び木育を推進し、地域の振興や再生に貢献している観点からも事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 事業採択時と比較すると、事業量の変動などによりＢ／Ｃは低減したが、現況に即した路網配置や路網と高性能林業機械を適切に組み合わせた作業システムの定着が図られるなど、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 本事業により、森林の有する多面的機能が一層発揮され、引き続きその効果が発現されると見込まれる。 また、水源涵養や山地保全の機能が発揮され、地域産業の振興や地球温暖化防止に寄与していることから、事業の有効性が認められる。

※平成 27 年度の評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

完了後の評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	平成 28 年度～令和 2 年度（5 年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（そうや） 宗谷森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 宗谷森林管理署
完了後経過年数	4 年	管理主体	宗谷森林管理署
事業の概要・目的 本事業は、北海道の最北に位置する、1 市 8 町 1 村に所在する約 16 万 9 千 ha の国有林野を対象としている。 本計画区における国有林の総面積の約 56%が水源涵養を主な目的とした保安林に指定されており、東側にオホーツク海、西側には 利尻島・礼文島 がある日本海に面し、沿岸部では水産業、内陸部では酪農が盛んであることから、地域産業である漁業や農業の振興に資する観点から地域の資源保全に重要な役割を果たしている。 また、稚内 以南は周氷河地形で緩やかな丘陵地帯となっており、高緯度地方の亜寒帯湿潤気候のもとで特色ある自然環境を形成していることから、利尻島や礼文島では固有種であるリシリヒナゲシやレブンアツモリソウなどの高山植物が生育し、利尻礼文サロベツ国立公園や北オホーツク道立自然公園に指定されているほか、日本百名山のひとつである標高 1,721m の 利尻山 における登山等のレクリエーションや保健休養の場として多くの人々に利用されている。さらにラムサール条約登録湿地のサロベツ湿原、クッチャロ湖など多くの重要な野生動物生息地域が存在し、主要部は生物群集保護林に指定されている。 森林の現況は、トドマツ（73%）を主な樹種とした人工林面積が約 4 万 1 千 ha、天然林面積が約 11 万 4 千 ha であり、森林蓄積は全道平均 147 m³/ha に対して 120 m³/ha となっている。人工林の齢級構成は、約 81%が 7～12 齢級で、その中でも主伐期とされる 10 齢級以上の割合が約 60%を占めるなど、森林資源の本格的な利用期を迎えており、針広混交林や複層林へ計画的に誘導し木材を安定的に供給するほか、間伐の適切な実施や主伐後の確実な更新を図る等、森林整備の必要性は一層増している。 このため、本事業は森林の有する公益的機能の持続的な発揮を通じて地域の期待に応えるとともに、国産材の安定供給体制の構築や多くの自然観光資源を有し、生物多様性の保全等の促進及び地球温暖化防止にも貢献するため、森林整備を積極的に推進するとともに森林整備の効率的な実施に必要な路網整備を実施したものである。 ・主な事業内容 森林整備 更新面積 136 ha			

	保育面積 4,856 ha 路網整備 開設延長 8.1 km ・総事業費 1,872,649 千円（税抜き 1,720,528 千円） （平成 27 年度の評価時点 2,010,476 千円（税抜き 1,827,705 千円））
① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化	令和 7 年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。 なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、事業量の変動や事業地の奥地化に伴い起伏量が大きくなるなど作業条件の厳しい箇所が多かったこと、費用便益分析に使用する単価の変更等によるものである。 総便益（B）15,623,748 千円（平成 27 年度の評価時点：18,987,860 千円※） 総費用（C） 3,793,222 千円（平成 27 年度の評価時点： 2,261,659 千円※） 分析結果（B／C） 4.12（平成 27 年度の評価時点：8.40）
② 事業効果の発現状況	・更新、保育によって適正に森林が整備され、水源涵養や山地保全、二酸化炭素の固定等、森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。 ・林道等の路網整備によって車両の通行可能範囲が広くなり、森林整備事業地までの所要時間や木材の搬出距離が短縮されることで木材生産の経費縮減が図られた。 ・計画的な事業の発注を通じて雇用の場を提供することにより、地域の社会経済に貢献した。
③ 事業により整備された施設の管理状況	・整備された森林は、継続して適切に管理しており、良好な状態である。 ・整備された林道は、適切に維持・管理しており、良好な状態である。
④ 事業実施による環境の変化	・水源涵養や山地保全の機能が十分に発揮できる森林が形成されている。 ・周囲の森林と調和した施業は自然景観を保持し、保健機能等を充実させている。
⑤ 社会経済情勢の変化	人工林が利用期を迎え、伐採などの素材生産事業の事業量は増加しているが、令和 5 年度における北海道の林業就業者数はおよそ 4,180 人で、平成 29 年度は 4,253 人、令和元年度は 4,269 人、令和 3 年度は 4,208 人とおおむね横ばいで推移している。 令和 5 年度における林業に従事する通年雇用者は 2,820 人で、平成 29 年度時の 2,364 人と比べると増加しており、従事者全体の 68%を占める。 また、その平均年齢は平成 29 年度から令和 5 年度の間およそ 50 歳で概ね横ばいで推移しているが、60 歳以上の割合は全体の 30%を超え、林業に従事する後継者の確保が課題となっており、作業の機械化による安全性や労働条件の向上が若年層の就業定着に大きく影響している。 また、北海道内では、木質バイオマスの需要拡大や道産建材の利用拡大の取組が展開されている中、国有林においても、森林・林業・木材産業の発展や振興に

	寄与するため、自然条件や作業システム等に応じた路網整備を推進するとともに、亜寒帯湿潤気候での自然資源の保護や火山島の環境維持、水源の涵養、災害の防止といった森林の多面的機能が発揮されるよう、森林整備を進めることが求められている。
⑥ 今後の課題等	森林資源の適正な管理・循環利用を図りながら森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画に基づき着実に森林整備、路網整備を実施する必要がある。 事業の実施に当たっては、今後の施業を想定した効果的な路網配置に加え、コンテナ苗の活用、伐採と造林の一貫作業及び下刈りの機械化により、森林整備の省力化及び低コスト化に資する取組を推進することが課題となる。 また、森林による二酸化炭素の吸収に対する期待に応え、また、北海道産材の需要に応じた木材の安定供給体制を構築するなど、北海道の林業・木材産業及び地域振興に貢献する取組が求められる。 なお、これらの取組は、関連する地域の自治体や林業事業体と現地検討会等を通じて技術の共有を図り、普及に向けて連携することが重要である。 地元の意見： (北海道) 森林整備事業及び路網整備事業の実施により、森林の有する多面的機能の維持増進が図られたと認識している。 今後とも道や関係市町村等と情報の共有を図りながら、森林整備を推進していただきたい。 ^{わっかないし} (稚内市) 本市の森林約 43,585ha のうち約 46%を占める国有林において、間伐をはじめとした森林整備が着実に実施され、森林の多面的機能が発揮されたことを評価する。水源涵養や土砂流出防止機能などの発揮により、基幹産業である農業や漁業の振興にも貢献していると認識している。 今後も本市における森林・林業・木材産業の発展および農業や漁業の振興に資する観点から、森林環境保全整備事業の継続と適切な国有林の整備を要望する。 ^{りしりちよう} (利尻町) 町内の森林のうち国有林が 89%を占める本町において、森林整備が着実に実施されたことにより、水源涵養機能及び山地災害防止機能の持続的発揮に向けた森林の整備及び保全が図られたものと十分に評価する。 また、森林の有する発揮を期待する機能として基幹産業である漁業の振興に資する観点から重要であるため展開して頂き、自然豊かな利尻島を守るため、今後においても同事業の継続を強く望むところであります。 ^{りしりふじちよう} (利尻富士町) 町内の森林のうち国有林が占める割合が高い本町において、森林整備が着実に

	実施されたことは十分に評価できるものである。 今後とも同事業の継続と国有林の整備を要望する。 れぶんちょう (礼文 町) 本町は、面積の殆どを国有林が占めており、離島という環境から水源涵養機能や土砂流出防止機能のほか、基幹産業である漁業への影響も大きく、森林の持つ多面的機能の促進整備は非常に重要となっている。 また、国有林の多くが国立公園に指定されており、自然環境の保全や有効利用を図ることも必要であり、今後も適切で総合的な森林整備を要望する。 はまどんべつちょう (浜頓別 町) 森林環境保全整備事業により、浜頓別町の森林の有する多面的機能の発揮が促進され、土砂流出の抑制などに寄与し、基幹産業の振興に資する森林施業が実施されたと評価する。また、本事業の着実な推進は、計画的な事業の発注を通じて、当町の森林施業者の雇用の場を提供しており、担い手不足などの問題に対して効果が見込まれる。 今後も、本町における森林・林業・木材産業の発展のため、森林環境保全整備事業の継続を要望する。 なかとんべつちょう (中頓別 町) 町内の国有林が占める割合が高い本町において、地球温暖化防止を目的とした森林整備が適切に実施され、良好な森林の形成と、森林の持つ多面的な機能が発揮されたと評価できます。 今後も民有林の模範となるような適切な整備と管理をお願いしたい。 えさしちょう (枝幸 町) 総面積の約 82%が森林であり、このうち国有林が約半数を占めている当町において、森林整備が着実に実施され、森林機能の充実が図られることは、自然災害の防止・減災機能をはじめ、当町の基幹産業である水産業・酪農業の振興においても、その機能は重要な役割を果たすものであり、当町の国有林で実施された森林環境保全整備事業については、十分に評価するものであります。 また、町内林業労働力の確保及び当町林業の推進等を図る観点からも、今後も同事業の継続と国有林の整備を要望します。 とよとみちょう (豊富 町) 森林整備事業により、森林の有する多面的機能の維持・促進、また、森林整備・保全及びその基盤となる林道等の路網整備の促進が図られたものと評価する。 また、本事業の着実な推進は、木材価格の低迷や後継者不足等の問題に対して効果が見込まれるため、今後とも同事業の継続と、国有林の整備を要望する。 ほろのべちょう (幌延 町) 森林整備事業による造林によって、土砂の流出の防止や水源涵養機能等の森林の有する公益的機能の発揮に寄与していると評価します。 酪農業が基幹産業となっている当町において、土砂流出防止機能や水源涵養機能
--	---

	能は重要であるため、今後も事業の継続及び国有林の適切な森林整備を要望します。 (^{さるふつむら}猿払村) 村内の森林のうち国有林の占める割合が高い猿払村において、森林整備が着実に実施されたことは十分に評価できるものである。 また、水産業が基幹産業となっている猿払村において、森林機能の中でも特に水源涵養機能や土砂流出防止機能は水産資源を守っていくため非常に重要である。今後とも同事業の継続と国有林の整備を要望するとともに、民有林事業者等 の見本となるような森林整備実施及び管理をお願いしたい。
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	本事業の実施により、水源涵養や山地保全等の森林の持つ公益的機能の維持増進が図られており、事業の効果が発揮されていると認められる。
評価結果	・必要性： 本事業は、地域の林業や水源林の保全、基幹産業である水産業及び畜産業の振興に資する観点から、森林の有する水源涵養機能や土砂流出防備機能をはじめとする多面的機能の発揮に重要な役割を果たしている。 - また、中頓別町と森林整備協定を締結し、民有林と国有林の一体的な森林整備計画の実施を推進するほか、現地検討会の開催により技術の普及等に寄与する観点からも、事業の必要性が認められる。 ・効率性： 事業採択時と比較すると、事業量の変動などによりB／Cは低減したが、現況に即した路網配置や路網と高性能林業機械を適切に組み合わせた作業システムの定着が図られるなど、事業の効率性が認められる。 ・有効性： 本事業により、森林の有する多面的機能が一層発揮され、引き続きその効果が発現されると見込まれる。 - また、水源涵養や山地保全の機能が発揮され、地域産業の振興や地球温暖化防止に寄与していることから、事業の有効性が認められる。

※平成 27 年度の評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

完了後の評価表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	平成 28 年度～令和 2 年度（5 年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（あばしりとうぶ） 網走東部森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 あばしりちゅうぶ 網走 中部 森林管理署
完了後経過年数	4 年	管理主体	網走中部森林管理署
事業の概要・目的	本事業は、北海道の北東部に位置する 1 市 2 町に所在する約 10 万 4 千 ha の国有林野を対象としている。 本計画区のうち、当署管内は、十勝・石狩・北見の分水嶺である三国山を源とする佐呂間別川地域と常呂川上流域に大別されており、オホーツク海流域では、サロマ湖でのホタテ貝桁網漁などの水産業が盛んである。河川やダムの上流部に位置する森林は、そのほとんどが国有林であり、全道一のたまねぎ生産をはじめ畑作と酪農を主体とする生産性の高い農業が展開されているため、水資源や環境保全の面で地域産業にも大きく寄与している。 また、本計画区における国有林の総面積の約 78%が水源涵養を主な目的とした保安林に指定されており、流域内のみならず、地域産業である農業や漁業の振興に資する観点から地域の資源保全に重要な役割を果たしている。 本計画区内で生産される木材は、北海道内の製材出荷量としても高い割合を占めており、森林資源の豊富な地域である。また、いくつかのレクリエーションの森が存在するが、置戸町に所在する「鹿の子沢風景林」は優れた自然景観を有し、観光資源としての潜在的魅力が認識されるレクリエーションの森として「日本美しの森お薦め国有林」に選定されている。 森林の現況は、トドマツ（73%）を主な樹種とした人工林面積が約 3 万 7 千 ha、天然林面積が約 6 万 7 千 ha であり、森林の蓄積は北海道の全道平均 147 m³/ha に対して 228 m³/ha となっている。 人工林の齢級構成は、約 79%が 7～12 齢級で、その中でも主伐期とされる 10 齢級以上の割合は約 72%を占めるなど、森林資源の本格的な利用期を迎えており、針広混交林や複層林へ計画的に誘導し、木材を安定的に供給するほか、間伐の適切な実施や主伐後の確実な更新を図る等、森林整備の必要性は一層増している。 このため、本事業は、森林の有する公益的機能の持続的な発揮を通じて地域の期待に応えるとともに、国産材の安定供給体制の構築や生物多様性の保全等の促進及び地球温暖化防止にも貢献するため、森林整備を積極的に推進するとともに森林整備の効率的な実施に必要な路網整備を実施したものである。		

	・主な事業内容 森林整備 更新面積 123 ha 保育面積 4,321 ha 路網整備 開設延長 11.7 km 改良延長 0.2 km ・総事業費 3,351,084 千円（税抜き 3,072,390 千円） （平成 27 年度の評価時点 3,412,705 千円（税抜き 3,159,912 千円））
① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化	令和 7 年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。 なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、事業量の変動や事業地の奥地化に伴う起伏量が大きくなるなど作業条件の厳しい箇所が多かったこと、費用便益分析に使用する単価の変更等によるものである。 総便益（B）16,590,711 千円（平成 27 年度の評価時点：28,944,899 千円※） 総費用（C）6,306,936 千円（平成 27 年度の評価時点：3,981,225 千円※） 分析結果（B／C）2.63（平成 27 年度の評価時点：7.27）
② 事業効果の発現状況	・更新、保育によって適正に森林が整備され、水源涵養や山地保全、二酸化炭素の固定等、森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。 ・林道等の路網整備によって車両の通行可能範囲が広くなり、森林整備事業地までの所要時間や木材の搬出距離が短縮されることで木材生産の経費縮減が図られた。 ・計画的な事業の発注を通じて雇用の場を提供することにより、地域の社会経済に貢献した。
③ 事業により整備された施設の管理状況	・整備された森林は、継続して適切に管理しており、良好な状態である。 ・整備された林道は、適切に維持・管理しており、良好な状態である。
④ 事業実施による環境の変化	・水源涵養や山地保全の機能が十分に発揮できる森林が形成されている。 ・周囲の森林と調和した施業は自然景観を保持し、保健機能等を充実させている。
⑤ 社会経済情勢の変化	人工林が利用期を迎え、伐採などの素材生産事業の事業量は増加しているが、令和 5 年度における北海道の林業就業者数はおよそ 4,180 人で、平成 29 年度は 4,253 人、令和元年度は 4,269 人、令和 3 年度は 4,208 人とおおむね横ばいで推移している。 令和 5 年度における林業に従事する通年雇用者は 2,820 人で、平成 29 年度時の 2,364 人と比べると増加しており、従事者全体の 68%を占める。また、その平均年齢は平成 29 年度から令和 5 年度の間およそ 50 歳で概ね横ばいで推移しているが、60 歳以上の割合は全体の 30%を超え、林業に従事する後継者の確保が課題となっており、作業の機械化による安全性や労働条件の向上が若年層の就

	業定着に大きく影響している。 また、北海道内では、木質バイオマスの需要拡大や道産建材の利用拡大の取組が展開されている中、国有林においても、森林・林業・木材産業の発展や振興に寄与するため、自然条件や作業システム等に応じた路網整備を推進するとともに、水源の涵養、国土の保全といった森林の多面的機能が発揮されるよう、森林整備を進めることが求められている。
⑥ 今後の課題等	森林資源の適正な管理・循環利用を図りながら森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画に基づき着実に森林整備、路網整備を実施する必要がある。 事業の実施に当たっては、今後の施業を想定した効果的な路網配置に加え、コンテナ苗の活用、伐採と造林の一貫作業及び下刈りの機械化により、森林整備の省力化及び低コスト化に資する取組を推進することが課題となる。 また、森林による二酸化炭素の吸収に対する期待に応え、また、北海道産材の需要に応じた木材の安定供給体制を構築するなど、北海道の林業・木材産業及び地域振興に貢献する取組が求められる。 なお、これらの取組は、関連する地域の自治体や林業事業者と現地検討会等を通じて技術の共有を図り、普及に向けて連携することが重要である。 地元の意見： (北海道) 森林整備事業及び路網整備事業の実施により、森林の有する多面的機能の維持増進が図られたと認識している。 今後とも道や関係市町村等と情報の共有を図りながら、森林整備を推進していただきたい。 (北見市) 北見市の森林のうち国有林が 60%以上を占める北見市において、森林環境保全整備事業により、森林の有する多面的機能の維持増進が図られ、土砂流出の防止、水源のかん養や温室効果ガスの吸収などに寄与し、本市の基幹産業である森林・林業・木材産業だけでなく農業・水産業の振興にも資する森林施業が実施されたと評価します。また、人工林が本格的な利用期を迎え、計画的な更新が求められている中、施業の集約化や、効率的な作業システムの導入による低コスト化も進めており、研修会等の開催により民有林への技術普及や林業経営者の育成にも資する取り組みは高く評価します。 今後も、適切な整備と管理を実施され、地域の暮らしと産業が保全されるよう森林環境保全整備事業の継続を要望するとともに、林業の担い手の確保など林業が抱える様々な課題に対して、地域一帯となった取組を引続き実施されることを要望します。 (佐呂間町)

	国有林は町民への水の供給源となっており、引き続き機能が継続となるよう適切な森林整備をこれまでも増して、より一層の整備推進を要望致します。 また、森林浴、森林散策等の憩いの森の役割を担っており、機能ごとに照らし合わせた森林整備にも取り組んで頂くよう期待しております。 (おけとちよう置戸町) 置戸町の森林のうち国有林が占める割合が高い本町において、森林整備が着実に実施され、森林の有する多面的機能の維持促進が図られたことは十分に評価できるものである。 今後においても、森林の持つ多面的機能が持続的に発揮できるよう、より一層の事業実施を要望する。
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	本事業の実施により、水源涵養や山地保全等の森林の持つ公益的機能の維持増進が図られており、事業の効果が発揮されていると認められる。
評価結果	・必要性： 本事業は、地域の林業や基幹産業である農業及び漁業の振興に資する観点から、森林の有する水源涵養機能をはじめとする多面的機能の発揮に重要な役割を果たしている。 - また、複数のレクリエーションの森を設定しているほか、国民参加の森づくりのためのフィールド提供をしており、周辺の森林整備を適切に実施することが保健文化の維持増進に寄与する観点からも事業の必要性が認められる。 ・効率性： 事業採択時と比較すると、事業量の変動などによりB／Cは低減したが、現況に即した路網配置や路網と高性能林業機械を適切に組み合わせた作業システムの定着が図られるなど、事業の効率性が認められる。 ・有効性： 本事業により、森林の有する多面的機能が一層発揮され、引き続きその効果が発現されると見込まれる。 - また、水源涵養や山地保全の機能が発揮され、地域産業の振興や地球温暖化防止に寄与していることから、事業の有効性が認められる。

※平成 27 年度の評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

完了後の評価表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	平成 28 年度～令和 2 年度（5 年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（あばしりとうぶ） 網走東部森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 あばしりなんぶ 網走 南部 森林管理署
完了後経過年数	4 年	管理主体	網走南部森林管理署
事業の概要・目的	本事業は、北海道の北東部に位置する、1 市 6 町に所在する約 13 万 6 千 ha の国有林野を対象としている。 本計画区は、東側に知床連山^{しれとこれんざん}を有し、羅臼岳^{らうすだけ}や硫黄山^{いおうざん}などが連なり、西側には網走川^{あばしり}や美幌川^{びほろ}をはじめとする多数の河川が流れ、丘陵地を下り、農地、都市部を潤しながらオホーツク海に注いでいる。サケ定置網漁や沖合底引き網漁などの沿岸部での水産業のほか、農業においてもじゃがいもなどの畑作と酪農を主体とする生産性の高い農業が展開されている。 本計画における国有林の総面積の約 59%が水源涵養^{かん}を主な目的とした保安林に指定されており、流域内のみならず、陸域と海域との水を含む物質循環の拠点として、また基幹産業である農業や漁業の振興に資する観点から地域の資源保全に重要な役割を果たしている。 本計画区内は、溪谷、湖沼、豊かな森林景観など豊富な観光資源にも恵まれ、知床国立公園など多くの自然公園にも指定されており、森と湖と海が調和した景観を有する地域として多くの観光客が道内外から訪れている。特に知床森林生態系保護地域（国有林の保護林）は、その全域が世界自然遺産に登録されているなど、原生的な天然林の保全、生物多様性の保全及び森林とのふれあいなど観光資源としての保全も期待されており、森林の公益的機能の維持増進を図るための適切な森林の管理経営が求められる地域である。 森林の現況は、トドマツ（58%）を主な樹種とした人工林面積が約 3 万 4 千 ha、天然林面積が約 8 万 1 千 ha であり、森林の蓄積は北海道の全道平均 147 m³/ha に対して 240 m³/ha となっている。 人工林の齢級構成は、約 78%が 7～12 齢級で、その中でも主伐期とされる 10 齢級以上の割合は約 63%を占めるなど森林資源の本格的な利用期を迎えているため、針広混交林や複層林へ計画的に誘導し木材を安定的に供給するほか、間伐の適切な実施や主伐後の確実な更新を図る等、森林整備の必要性は一層増している。 このため、本事業は、森林の有する公益的機能の持続的な発揮を通じて地域の期待に応えるとともに、国産材の安定供給体制の構築及び地球温暖化防止にも貢		

	献するため、森林整備を積極的に推進するとともに森林整備の効率的な実施に必要な路網整備を実施したものである。 ・主な事業内容 森林整備 更新面積 239 ha 保育面積 5,540 ha 路網整備 開設延長 10.0 km ・総事業費 3,824,821 千円（税抜き 3,513,168 千円） （平成 27 年度の評価時点 2,928,026 千円（税抜き 2,711,135 千円））
① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化	令和 7 年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。 なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、事業量の変動や事業地の奥地化に伴い起伏量が大きくなるなど作業条件の厳しい箇所が多かったこと、費用便益分析に使用する単価の変更等によるものである。 総便益（B）19,911,341 千円（平成 27 年度の評価時点：28,016,899 千円※） 総費用（C） 7,336,836 千円（平成 27 年度の評価時点： 3,756,619 千円※） 分析結果（B／C） 2.71（平成 27 年度の評価時点：7.46）
② 事業効果の発現状況	・更新、保育によって適正に森林が整備され、水源涵養や山地保全、二酸化炭素の固定等、森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。 ・林道等の路網整備によって車両の通行可能範囲が広くなり、森林整備事業地までの所要時間や木材の搬出距離が短縮されることで木材生産の経費縮減が図られた。 ・計画的な事業の発注を通じて雇用の場を提供することにより、地域の社会経済に貢献した。
③ 事業により整備された施設の管理状況	・整備された森林は、継続して適切に管理しており、良好な状態である。 ・整備された林道は、適切に維持・管理しており、良好な状態である。
④ 事業実施による環境の変化	・水源涵養や山地保全の機能が十分に発揮できる森林が形成されている。 ・周囲の森林と調和した施業は自然景観を保持し、保健機能等を充実させている。
⑤ 社会経済情勢の変化	人工林が利用期を迎え、伐採などの素材生産事業の事業量は増加しているが、令和 5 年度における北海道の林業就業者数はおよそ 4,180 人で、平成 29 年度は 4,253 人、令和元年度は 4,269 人、令和 3 年度は 4,208 人とおおむね横ばいで推移している。 令和 5 年度における林業に従事する通年雇用者は 2,820 人で、平成 29 年度時の 2,364 人と比べると増加しており、従事者全体の 68%を占める。また、その平均年齢は平成 29 年度から令和 5 年度の間およそ 50 歳で概ね横ばいで推移しているが、60 歳以上の割合は全体の 30%を超え、林業に従事する後継者の確保

	が課題となっており、作業の機械化による安全性や労働条件の向上が若年層の就業定着に大きく影響している。 また、北海道内では木質バイオマスの需要拡大や道産建材の利用拡大の取組が展開されている中、国有林においても、森林・林業・木材産業の発展や振興に寄与するため、自然条件や作業システム等に応じた路網整備を推進するとともに、水源の涵養、国土や観光資源の保全といった森林の多面的機能が発揮されるよう、森林整備を進めることが求められている。
⑥ 今後の課題等	森林資源の適正な管理・循環利用を図りながら森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画に基づき着実に森林整備、路網整備を実施する必要がある。 事業の実施に当たっては、今後の施業を想定した効果的な路網配置に加え、コンテナ苗の活用、伐採と造林の一貫作業及び下刈りの機械化により、森林整備の省力化及び低コスト化に資する取組を推進することが課題となる。 また、森林による二酸化炭素の吸収に対する期待に応え、また、北海道産材の需要に応じた木材の安定供給体制を構築するなど、北海道の林業・木材産業及び地域振興に貢献する取組が求められる。 なお、これらの取組は、関連する地域の自治体や林業事業者と現地検討会等を通じて技術の共有を図り、普及に向けて連携することが重要である。 地元の意見： （北海道） 森林整備事業及び路網整備事業の実施により、森林の有する多面的機能の維持増進が図られたと認識している。 今後とも道や関係市町村等と情報の共有を図りながら、森林整備を推進していただきたい。 あばしりし （網走市） 森林整備事業の実施により、水源涵養機能、保健・文化的機能など森林の有する多面的機能の維持・促進が図られたものと評価する。今後も森林の有する多面的機能が持続的に発揮できるよう、現状把握の上、森林の適切な維持管理の継続を要望する。 つべつちよう （津別町） 町内の森林のうち国有林の占める割合が高い当町において、間伐や再造林を主体とした森林整備が実施されたことは評価できる。 また、当町において1次産業が基幹産業であること及び網走川上流域であることから、水源涵養機能や土砂流出防止機能は重要であることから、今後も適切な森林・路網整備の実施により、民有林事業者の見本となるような管理をお願いしたい。 びほろちよう （美幌町）

	本町において森林整備が適切に実施され、森林の持つ多面的機能が発揮されたと評価できる。 今後も適切な整備と管理を実施され、町有林や民有林の模範となるような森林経営をお願いする。 また、当町では FSC®森林認証を取得しており、国際基準に基づく環境に配慮した森林づくり、木材・木製品の付加価値向上（ブランド化）の取り組みを進めていることから、今後もより一層の情報共有・連携等をお願いしたい。 こしみずちょう (小清水町) 小清水町の森林のうち、国有林の割合が高い本町において、森林整備が確実に実施されていることは十分評価できるものです。 特に水源涵養機能は、本町の基幹産業である農業に影響が大きいことから、今後も同事業の継続と適切な森林整備を要望いたします。 きよさとちょう (清里町) 町内の森林のうち、国有林が 68%を占める清里町において、森林環境保全整備事業により森林の持つ多面的機能の維持・促進が図られたことは十分に評価できるものであります。 また今後とも森林環境保全整備事業の継続を要望します。 おおぞらちょう (大空 町) 大空町における国有林は、本町の南端にある もこと 藻琴 山麓一帯及び北側にある網走湖の東岸に面しており、藻琴山麓に広がる国有林では、カラマツやトドマツ等人工林からの造材だけでなく、ひがしもこと 東藻琴 地区や網走市への飲料水供給元としての水源涵養や土砂流出防止、あかんましゅう 阿寒摩 周 国立公園の一部としての自然保護等多面的な機能を発揮しており、地域にとって貴重な資源であります。 道内の森林資源が本格的な利用期を迎える中で、藻琴山麓の国有林でも適切な主伐による更新と、多面的な機能を有効に発揮させるために必要な森林環境保全整備事業による森林整備が実施されたことは、林業分野及び周辺の自然環境だけでなく、地域の住民生活や様々な分野の経済及び社会活動にも非常に有意義で、高く評価するとともに、今後も同事業による国有林の適正な森林の継続を強く要望するものであります。 しゃりちょう (斜里町) 国有林において森林環境保全整備事業が実施されたことにより、自然環境保全に加え、森林の有する観点から重要であり、今後も適切な国有林の整備を要望します。また、農地に配慮した防風保安林の管理を継続的に実施していただくようお願いします。
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	本事業の実施により、水源涵養や山地保全等の森林の持つ公益的機能の維持増進が図られており、事業の効果が発揮されていると認められる。

評価結果	・必要性： 本事業は、地域の林業や基幹産業である農業及び漁業の振興に資する観点から、森林の有する水源涵養機能をはじめとする多面的機能の発揮に重要な役割を果たしている。 また、本事業地には貴重な野生動植物が多く生息している知床世界自然遺産が近接している。このことから適切な森林整備により、生物多様性や原生的な天然林の保全に寄与していることから、事業の必要性が認められる。 ・効率性： 事業採択時と比較すると、事業量の変動などによりB／Cは低減したが、現況に即した路網配置や路網と高性能林業機械を適切に組み合わせた作業システムの定着が図られるなど、事業の効率性が認められる。 ・有効性： 本事業により、森林の有する多面的機能が一層発揮され、引き続きその効果が発現されると見込まれる。 また、水源涵養や山地保全の機能が発揮され、地域産業の振興や地球温暖化防止に寄与していることから、事業の有効性が認められる。
------	---

※平成 27 年度の評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。